

高麗大学校 総長 鄭 眞澤 (チョン・ジンテク) 氏  
スピーチ 日本語訳

皆様、こんにちは。高麗大学校総長のチョン・ジンテクと申します。

本日は伝統ある名門、早稲田大学から、こうして名誉博士学位を授与していただき、大変光栄に存じます。また、ホームカミングデー記念式典に参加された早稲田大学のファミリーの皆様にも、心より感謝の意を申し上げます。本来は日本語でスピーチすべきですが、私の考えと心をより正確にお伝えするため、これより韓国語でお話しすることをお許してください。

尊敬する田中愛治総長、そして早稲田大学の教授、学生、校友の皆様、創立140周年を迎えた日本最高の名門私立大学である早稲田大学より、名誉博士の学位を賜り、非常に光栄に存じます。本学位授与のため、ご尽力いただいた早稲田大学の関係者の皆様と、この場にお集まりいただいた早稲田大学および高麗大学校の仲間の皆様に深い感謝の意を申し上げます。

私が本日賜りました名誉博士学位は、日本と韓国を代表する名門私立大学である早稲田大学と高麗大学校が築き上げてきた友情と協力のたまものであり、今後も永遠に交流を重ね、ともに発展していくことを約束する象徴となるでしょう。早稲田大学はこの140年の間、学問の独立、学問の活用、模範国民の造就という建学理念を実現し、日本のみならず、世界を舞台に活躍する卓越した人材を輩出してきました。自由かつ独創的な学問の確立を大学の使命と位置づけ、学理的研究のみならず、知識の実践を推奨し、個性の尊重と共同体の発展を実現するグローバルな人材を養成してきたことが、早稲田大学の歴史であり、精神でした。これは、グローバル時代である今日も、大学に求められる使命と役割であるという点において、早稲田大学の創業者である大隈重信先生の先覚者的な一面をかいま見ることができます。

高麗大学校は、朝鮮半島において、列強がしのぎを削っていた1905年、教育救国の建学理念の下に設立された、韓国初の近代的高等教育機関です。創設者であるイ・ヨンイク先生は、学生たちに旧学問である儒学ではなく、新たな学問である法学、経済学、経営学等を教え、韓国の近現代史を率いた実践的な知識人を養成しました。1933年、韓国の三千里という雑誌は、高麗大学の創設者であるイ・ヨンイク先生を、早稲田大学の隈重信に肩を並べる存在として、文教100年の礎を築いた人物と記しています。

早稲田大学政経学部を卒業したキム・ソンス先生は、1932年に高麗大学校を引き継いだ後、現在のソウル・安岩洞に壮大な石造建築を誇る学びやを築くことで、今日において世界のどの大学よりも美しい大学キャンパスの礎を作りました。先公後私という信念を生涯守り抜いたキム・ソンス先生は、その時代における使命を自覚し、公益的価値に身をささげる高大人にとって永遠なる象徴です。

1946年に総合大学に昇格した高麗大学校の初代総長であるヒョン・サンユン先生は、1918年に早稲田大学史学科を卒業しました。卒業当時、ヒョン・サンユン先生は、みずから編集者であった留学生雑誌、学之光に、早稲田大学で私が悟ったことは、朝鮮社会に対するみずからの責務と信念という文章を残されました。それ以降、ヒョン・サンユン先生は、社会的、時代的な責務をみずから引き受け、教育界に身をささげ、人財育成に貢献する生涯を送られました。

私がここで両校の先覚者的知性と呼べる数名の方に言及したのは、いつの時代、いかなる社会、いかなる分野であれ、歴史をリードする主体は人であるということを強調するためです。

私は高麗大学校史上初となる、工学部出身の総長です。第4次産業革命時代の到来と、目まぐるしく変化する未来に対応するため、私は新たな価値を創出していく人間中心の高麗大学、Human KU、Creating New Valuesという目標を掲げました。さらに、先端科学技術時代が大学に求める新たな価値として、創意的な未来人材の養成、社会の価値を高める研究、より積極的な社会貢献という3つを定めました。

不確実性の時代には、創意とイノベーションが世界を主導しますが、この創意とイノベーションは、多様性と相互調和、融合と知識統合を基盤としています。このコアとなる要素は、すべての構成員を個性ある人間として尊重し、その能力を最大化する条件を作るときに具現化されるというのが、私の求めるHuman KUの哲学です。

工学者である私が人を前面に押し出したことを意外に思われる方もいらっしゃいましたが、私は人類にとって、どれだけ役に立つかという倫理・道徳的価値判断に欠けた技術中心の社会は、最終的に混乱に陥ることになると考えており、したがって高麗大学校は、人を中心に置いた創意的グローバル人材の養成機関であるべきだとの信念を実践してまいりました。

私は総長就任直後である2019年に、ダイバーシティ委員会を設置し、性別、国籍、人種、宗教が異なる構成員が、高麗大学校によってお互いに尊重し、協力しつつ、高い相違性を発揮できる環境と条件を整えてまいりました。昨年には総長直属の機関として、エコ、CSRガバナンス改善等持続可能な発展のコア要素を議論するESG委員会を新設し、教育、研究、学生活動等、あらゆる面において人類の未来に対する大きな責任を実現するイノベーションと社会貢献を成し遂げつつあります。高麗大学校はこのような創意的な未来人材の養成を通じ、世界を変える大学へと成長を続けています。

早稲田大学は2032年の創立150周年を前に、さらに大きな飛躍に向けた準備を進めていると聞いております。早稲田大学は、世界に貢献する高い志を持った学生、世界平和と人類の幸福の実現に貢献する研究、グローバルリーダーとして社会を支える卒業生、世界に信頼され、常に改革の精神を持って進化し続ける大学という、Waseda Vision 150を掲げました。これは究極的には、われわれ高麗大学校が追い求める目標と同じであり、今後、両校がお互いに協力し、共に成長を遂げる道を歩んでいけるものと確信しております。

尊敬するご来賓の皆様、1930年代から早稲田大学校と高麗大学校はスポーツ交流を続け、1973年には、学術交流協定を結びました。それ以降、本格的に教授と学生の交流が活発に継続されており、2002年には、両校校友会間の交流協定も締結されました。

1973年、両校の学術交流を推進していた当時、高麗大学校の総長であった、キム・サンヒョプ先生は、約10年間在任され、高麗大学校発展に、大きな役割を果たされた方です。キム・サンヒョプ先生は、高麗大学校が、民族主体、民間主体で設立された学校でありながらも、同時に、万人にとって開かれた自由学園であることを強調し、さまざまな信仰と宗教、さまざまな世界観と価値体系、さまざまな仮説と学説、このような開かれた広場、自由の殿堂の中で成立する新たな真理の創造が、高麗大学校で成し遂げられねばならないと力説されました。50年がたった今でも、その精神は受け継がれるべきだと思います。

したがって私は、早稲田大学創立140周年を記念する厳粛な場で、誠に光栄な名誉博士学位を賜り、高麗大学校と早稲田大学が、開かれた広場、自由の殿堂として新たな真理を創造するパートナーとしての役割を共に永遠に遂行していくことを提案いたします。改めまして私に名誉博士学位を授与くださいましたことに、深い感謝の意を申し上げます。

高麗大学校と早稲田大学が友情と協力を通じ、両校がともに世界を変える大学、世界に貢献する大学として、引き続き発展していくことを祈念いたします。

ありがとうございました。